平成２９年度

自己評価結果公表シート

朋　来　幼　稚　園

１、園の教育目標

真宗保育の「共に生き、共に育ち合う」保育を理念とする。他の子どもと比べるのではなく、その子のありのままの姿を認め、一人ひとりの個性を尊重し、子どもが生きる力や自ら考え行動する「自発心」を保育や遊びの中から育てる。スローガンは「楽しさ、追っかけっ子」。

２、本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って行った自己点検、自己評価を実施することによって、教職員自らが自分自身を振り返り、課題を明確化し取り組むことで、個々の資質向上を図っていく。 また保護者アンケートを基に、保育内容の充実・改善に努めていく。

３、評価項目の達成及び取り組み状況

評　価　項　目	取　　組　　状　　況
１. 子ども･保護者との関わり方を見つめ直し、より深い信頼関係を築いていく（前年度からの継続実施）	・保護者個人懇談（年３回）及び８月末に家庭訪問を実施する ・「子どものあゆみ」や「関わりの記録」を作成し、一人ひとりの子どもとの関わりを定期的に見つめ直した ・電話やお便り、メモ等を活用し、保護者との連携を密にした ・学年主任を中心とした学年会議を充実させ、一人ひとりの子どもの情報を複数の保育者で共有し、その後の関わり方の参考とした ・学期毎にクラスの情報交換会（全職員参加）を実施した
２. 保育者の資質向上	・園内研修の進め方を改定し自分自身の保育に生かせるようにした ・外部機関の研修会に積極的に参加した。 ・カウンセラー（臨床心理士）とのコンサルテーションを通じて専門知識や園児への関わり方の幅を広げた。 ・外部講師を招いての園内研修を実施 （12/22･･･安家周一先生＜同僚性、仲間作り＞
３. 園内環境の整備・改修	・保育室内での子どもの遊びに関する環境整備に力を入れ、年齢や発達段階に即した玩具等を各保育室に購入した ・厨房の床塗替え工事、外階段の改修、ウッドデッキの改修 ・園庭の人工芝張替えを実施
４. 保護者のニーズを把握する	・保護者（保護者会役員）との懇談会を定期的に実施し、また全保護者を対象にアンケート調査を実施して、保育内容や行事等について意見を出してもらい、必要に応じて見直し、改良を図った

４、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通理解を図り、一人ひとりが高い意識のもと日々の保育や振り返り、また保護者との関わり方について取り組んだ 一方、保護者や子どもと関わる際、教職員自身の心の安定が不可欠であり、園長以下、副園長や主任等がしっかりしたサポート体制を構築し現場教員のフォローを実施したり、カウンセラー等の専門知識を有する外部講師などから助言をもらいことで、教員が安定した状態で日々の保育を実践できた。 特に１～３年目の教員に対するフォロー体制が少しずつ構築できるようになってきた 園行事についての見直しを行うことができた

５、今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取り組み方法
園に対する保護者の理解度を高める	建学の精神に即した、私学の独自性に充分配慮しつつ、保護者が園に期待する幼稚園像を出来るだけ把握しつつ、園や子どもを取り巻く社会状況にも目を向けながら、子どもや保護者が利用しやすい施設を目指して、検討していきたい。
安全管理	避難訓練などの定期実施のさらなる充実や消防計画や危機管理マニュアルを作成することで、子どもの安全確保及び職員の意識向上に繋げていく。
園行事の見直しについて	保護者アンケートの結果も踏まえた上で、園児の育ちを第一に考えた内容を追求し、また保護者の満足度を高め、出来るだけ教職員の負担が軽減されるよう進める
特別支援教育について	外部機関との連携を強化する。 主任等が個別指導計画案の作成等の研修に積極的に参加していく 巡回指導等を通じて、具体的な支援方法を学ぶ
ミドルリーダーの育成	勤続 5 年以上～10 年未満のミドルリーダーをいかに育成していくのか 今後の検討を重ねていく必要がある
新制度移行に向けて	平成 31 年度より「幼稚園型認定こども園」への移行を予定している中、保育内容含め、保護者に対して変更点等を積極的に発信し共通理解を図ることで、スムーズな移行ができるよう進めていく

６、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

７、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。